

平成 26 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	特定非営利活動法人大阪自然史センター
活動テーマ	被災地でこそ、楽しい学びと知的体験を！ ボランティアの可能性をひろげる自然科学系体験プログラムの開発と実施



被災地では震災直後から現在に至るまで、心と体を解放する「あそび」や「まつり」の活動は提供されてきたものの、知的好奇心を満たす「学び」の機会は多くありませんでした。そのため、自然科学や歴史などを専攻する学生ボランティアにとっては、自身の専門分野を活かしにくい状況がありました。

今回の活動は、大阪自然史センターが博物館の教育普及活動で培ってきた経験を生かし、大阪・宮城・岩手の3つの学生団体と協働して、学びの体験プログラムを開発・実施することで、被災地でのボランティア活動の可能性を広げ、支援者・非支援者双方の知的好奇心を満たし、地元を誇りに思う子どもたちを育成し、長期の復興に向けた心の糧となることを期待して行われました。

イベントの実施場所は、連携団体「大阪大学災害ボランティアサークル・すずらん」さんの活動拠点、岩手県野田村。村の歴史（牛による山間部輸送）、地質（琥珀、マンガン鉱山）、水産業（鮭、製塩など）から4つの学習プログラムを企画、現地での子ども向けイベント『あぶんでみっぺし! 野田っ子隊』※として実施しました（参加者77名）。

ひとつのイベントを軸に、事前・事後のフォローアップ研修、野田村と歴史的につながりのある内陸の奥州市でもイベントを行い、この企画が一過性のものに終わらないようつとめました。その結果、イベント運営を担った学生団体から自主企画のプログラムも生まれました。企画から開催、その後に至るまでの連携が信頼感を深め、コラボレーションによって新しい価値を生み出す効果を知る貴重な取り組みになりました。

※野田村周辺方言で「あつまってみよう」